

村上憲郎著「村上式シンプル英語勉強法」ダイヤモンド社 2008年7月31日刊を読む

1. 1分間に500ワード読むのが最終目標

(1) 初心者が英語を読むスピードは100ワード/分くらいと書きましたが、村上式の実目標は500ワード/分に設定しています。

「そんなに速くなくて、自信ない」という声も聞こえてきそうですが、最初から焦ったり嘆いたりすることはありません。読み続けていけば、おのずと読むスピードが上がっていきます。

(2) ちなみに、皆さんが日本語の文章を読む場合、読みながら口は動かないですよね。頭の中で音読しているということもなく、本当の意味での黙読が出来るでしょう。

(3) それは多分、漢字だけを拾って読んでいるからです。この漢字が出てきたら、次には「ということです」が続くだろうというのを無意識に理解している。だから速く読めるんです。

(4) でも英語を読む場合、最初はみんな無意識のうちに頭の中で音読してしまっている。英語も日本語と同じようなスピードで読むには、黙読出来るようになることです。

(5) そのためにもパラグラフごとに、息継ぎなし、後戻りなしで、一気呵成に出来るだけ速く読むことです。

(6) こうして300万語、小説10冊と、ノンフィクション10冊。このくらいを英語で読み終えた頃には、「頭の中の音読の音」が聞こえなくなっているはずですよ。

(7) 最初100ワード/分くらいからスタートしても、これが読むうちに200ワード/分になり、300ワード/分になってくる。この頃には徐々に頭の中の音読が黙読になってきます。

(8) もちろん、最初は読むスピードも右肩上がりに速くはなりません。しかし1日30分から1時間。毎日読み続ければ、あるとき突然「あれ、速くなってきた」という時期がきます。個人差はありますが1か月から2か月くらいごとに変化が訪れます。

(9) これが400ワード/分を超え、目標の500ワード/分に近づく頃から、英語を読むことに関して、“次の世界”に入っていきます。

(10) 500ワード/分というのは相当に速いスピード。この域に達すると、それこそ自分の知っている分野の日本語の文章を読むのと同じような感覚で読めるようになります。

2. 英語にまったく自信のない人は中学校の教科書を読む

- (1) 皆さんの中には、中学、高校、大学と英語はまったくサボってまして、卒業出来たのが不思議なくらい、という人もいるでしょう。
- (2) そういう、英語そのものに自信がない人の場合、英文法を完全に無視しても大丈夫というわけにもいきません。
- (3) 基本構造を知っていて初めて、必要あるなしが分かるのですから。その場合は、中学校3年分の教科書をおさらいします。
- (4) 教科書は、大きな書店で購入出来ますし、もし教科書が売っていなければ教科書ガイドでもいいです。教科書ガイドはインターネット書店などでも買えます。要は、教科書の本文さえ手に入ればいわけですから。
- (5) おさらいといっても机に向かってノートにペンを走らせる必要はありません。文法だとか句型だとか難しく考えずに、ただただ読めばいいんです。だまされたと思ってやってみてください。
- (6) その場合でも、村上式は一气呵成です。1年分の教科書の本文を毎日10回読んで、1週間で終了。つまり、3週間で中学3年分が終了します。
- (7) 中学1年からおさらいして、中学3年まで行けば、英語そのものにも慣れてきます。何年も英語から離れてしまっていた……という人には、良いウォーミングアップになると思います。
- (8) 英語の構造が分かればOK。それが分かれば、なぜOもCも必要ないかが分かります。
- (9) 中学教科書のおすすめ教材
NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition1,2,3(三省堂)公立中学などで多く採用されている教科書。中1～中3まで。やり直しの英語に。

3. 目標はビジネスで困らないレベルの一万語

- (1) 英語はつまるところ単語力です。当然ですが、単語を知らなければ英語はできません。だから、とにかく英単語をたくさん覚える。どれだけ多くの単語を知っているか。これが重要なんです。
- (2) 知っている単語が増えることで、Chapter1の「読む」スキルも上がってきます。知っている単語が多くなればなるほど、読むスピードが上がっていきます。このChapter2の「単語を覚える」は、「読む」の力を上げるためにも同時に行ってほしいと思います。
- (3) ではビジネスで英語を使えるようになるためには、いったいどのくらいの単語を覚えればいいのか。

- (4) その前に、私たちは日本語をどのくらい知っていると思いますか？
- (5) 私は日本語をどれだけ知っているかを確認するために国語辞典を相手に調査をしたことがあります。結果から言うと、7万語くらい知っていました。
- (6) もちろんほとんどはパッシブに知っている単語(日常的には使えないけれど、意味は知っているという単語。これに対して日常的に使える単語はアクティブに知っている単語)でしたが。
- (7) これは一般のビジネスマンの人でも、そうは変わらないはず。日本人ならだいたい7万語の日本語ボキャブラリーをみんな持っていると思っていいでしょう。
- (8) では外国人は、英単語をどのくらい知っているのか。実はこれもテストしたことがあります。
- (9) 以前勤めていた外資系企業の同僚の外国人数人を対象に、ランダムハウスのペーパーバックスの辞書でテストしました。その辞書は収録語数が10万～15万語くらいだったと思います。
- (10) すると、MBAを取って入社してきた外国人で、知っている英単語がやはり約7万語でした。英語のネイティブは英単語約7万語、日本語ネイティブも日本語単語約7万語というボキャブラリーがあるのです。
- (11) もちろん英語のネイティブに対等に立ち向かうなど、無理な話です。とはいえ、彼らと丁々発止とやりあえるには、どのくらいのボキャブラリーが必要でしょうか。
- (12) 村上式の勉強法で覚える英単語の目標は1万語です。とにかく1万語覚える。そうしてビジネス英語に困ることはまずないというレベルを目指します。
- 「1万語なんてムリ!」「いきなりハードルが高いじゃないか!」と驚いた人もいますが、ご安心を。確実にモノにするための方法があるんです。

[コメント]

中学時代には、中学校の英語教科書をスミからスミまで音読してすべて覚えてしまう。高校生、大学生、社会人で英語をモノにしたい人も、中学校の英語教科書をスミからスミまで音読し、すべて覚えてしまう。中学英語の重要性をこれほど強調した本はない。あとは単語を1万語。1万語になるまで、少しずつ毎日覚えるのみ。

- 2009年9月25日 林明夫記 -